

# 社会福祉法人 征峯会 しらとりハワイアンデイ



## ～運転シミュレーター導入で新たなサービス提供を実現～ シニアフィットネスでみんなで取り組む“楽しい”コミュニティを形成



法人名	社会福祉法人 征峯会
施設名	しらとりハワイアンデイ
設立	1987年4月
所在地	茨城県筑西市上平塚748-1
事業区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイアンデイサービス（通所介護）</li> <li>・ハワイアンショートステイ（短期入所生活介護）</li> </ul>
職員数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイアンデイサービス：120名</li> <li>・ハワイアンショートステイ：40名</li> </ul>

### ■社会福祉法人 征峯会 しらとりハワイアンデイについて

茨城県筑西市を中心に、介護事業と障がい者支援事業をしている社会福祉法人征峯会。設立当時から福祉を通じた地域交流の核となる存在になっている。各事業所では、「らしさ」をテーマに、その名の通り「しらとりハワイアンデイ」では職員がアロハシャツを着て、ご利用者に対して笑顔溢れるサービスと非日常の空間を提供し、健康増進、リハビリサービスを展開している。またデイサービスだけに留まらず、移動スーパーやボランティアも精力的に活動し、地域に根ざした「楽しさ」を提供する施設である。

### 導入のキッカケ・課題について

#### ■運転シミュレーターが新たな利用者向けのサービス提供のキッカケに

同施設が拠点をおく茨城県筑西市エリアは地域柄として車がないと不便であり、高齢者の運転に対する課題もあった。

従来までは、適度な運動を通じて運転も継続してもらおうという発想だったが、新たな対象者に向けて何か新しいサービスが提供できないか検討をしていた。そして同施設の職員だけではなく、別施設のケアマネージャーからの声や運転免許返納後に認知症を発症する事案の相談などの影響もあり、運転シミュレーターの導入検討にいたったという。

身体面のデイサービスだけではなく、利用者の生活の一部である運転を支援するという点で、運転シミュレーターは自身の運転技術を数値化できる点から、利用者の運転継続に向けた励みにもなるという考えからも導入を決めた。また、施設内の送迎を担当する職員に対しての安全運転の啓蒙にもつながることから、一石二鳥にもなるという点も後押しになった。

## 運転シミュレーターの活用

### ■ 運転技術が点数化されるから利用者がゲーム感覚で楽しめる

同施設で導入することのメリットとして、利用者へのサービス提供の幅が増えることにある。ケアマネージャーや地域包括支援センターと連携を図りながら、運転シミュレーターによるサービス周知を行い、徐々に運転シミュレーターを利用するシニアフィットネスのサービス登録者を増やしていったという。

シニアフィットネスは2時間の中で、基本的な運動プログラム以外にも、利用者が自身で好きなプログラムを選択し、日々運動を行っている。運転シミュレーターはその中の一部のコンテンツとして利用者は20分ほど運転プログラムを実施している。同施設は、午前と午後にプログラムをわけて、それぞれで10名にご利用いただき、現在は、70名ほどのサービス利用者がある。

運転シミュレーターは、その利用者の運転評価が数値として可視化されることが特長の1つとして挙げられる。利用者たちは、毎月1回程度、運転シミュレーターを利用し、前月よりも自身の運転技術が改善されたのか、点数が下がったのか、ある種のゲーム感覚で楽しく利用していただいているという。

「利用者からは、自身の運転が点数として表示され、運転評価の点数がアップするとご本人の自信にもつながっているようです。」とシニアフィットネスの相談員を務める植木氏はいう。

その一方で点数が下がってしまう場合には、ドライビングシミュレーターの反応検査だけでなく、市街地走行など多面的に運転能力の改善点を見出し、日頃のデイサービスへの取り組みや、ケアマネージャーとも連携してフォローアップを実施している。

あくまでも同施設では、専門的な目線による運転プログラム実施という視点ではなく、利用者が楽しく運転プログラムを体験できることを主眼として利用者第一でサービスを提供している。



Hondaセーフティナビ 運転能力評価サポートソフト

## 運転シミュレーターの活用

### ■ 運転シミュレーターを通じて利用者同士のコミュニケーションを生む

このように同施設では、利用者の「楽しさ」を実現する施設として職員が笑顔で利用者へのサービスを提供している。何より利用者自身が運転に対して自身をもつことで、継続的な運転の実現にもつながっている。

ある利用者の方は、それまで旦那様の介護施設への送迎をしていたものの、免許返納を検討していたが、同施設で継続的に運転シミュレーターを活用し、免許更新をされたというケースもある。それ以外にも利用者同士で運転シミュレーターに取り組むことで、1人ではなく複数の方と関わりながらコミュニケーションが図れる点も利用者のニーズに応えることにつながっている。

運転シミュレーターを活用するにあたっては、担当する職員も実際に体験しながら、機器の利用について習得していった。運転プログラムも短時間で実施することから、今ではどの職員でもドライビングシミュレーターを活用でき、サービス提供の標準化にもつなげている。最近では、介護される側の方向けに健康教室や介護予防室なども設けることで、利用促進につなげていくようなイベントにも積極的に取り組んでいる。実際には、介護保険による報酬などを考慮すると、運転プログラムは、同施設のデイサービスを提供するための、入口の役割を果たすフックサービスとしても機能している。

## 運転シミュレーターの展望

### ■ 質の高いサービス提供で地域コミュニティの核となる存在を目指す

同施設は「らしさ」に加えて、地域コミュニティの核となる存在として利用者に品質の高い「楽しさ」を提供している。新たに導入をした運転シミュレーターもその一躍を担っている。利用者の運転継続という視点だけではなく、運転プログラムをキッカケに同施設のサービスを享受することで、利用者同士の関わりをもつコミュニティにも発展している。

今後も同施設のシニアフィットネスサービスを知る体験会などを通じて、ご利用者数の増加にもつなげていき、同施設がかかげる地域コミュニティの「居がい」（いきがい）をこれからも広げることを目指していく。



Hondaセーフティナビ  
運転能力評価サポートソフト



### 【お問い合わせ】

本掲載記事へのお問合せは以下でお願いします。

株式会社マネージビジネス  
03-6429-9977（シミュレータ専用ダイヤル）  
シミュレータ製品担当営業宛